

特選

一緒にいられる幸せ

呉市立片山中学校

2年 桐野 侑 旬

この夏、広島で大規模な土砂災害が発生した。毎年、梅雨や台風の時期になると同じような災害のニュースが日本のどこかで起きたというニュースを聞くが、今年はこんな近くで大勢の人が被害に遭うような大災害が起きてしまい、自分にも危険があるのだと身近に感じた。そして、もし自分が同じ状況になってしまったらと考えると、恐ろしくなった。家族もこの災害のニュースを知って僕と同じように考えたようで、みんなで自然と災害についての話になった。

自分達と同じ位の年齢の人が亡くなっていること。すさまじい勢いで大量の土石流が家の窓や壁を突き破って流れ込んできたこと。道路に大量の雨水が流れて川のようになってしまったこと。早朝未明の出来事であったために情報や警報の受け取りにバラつきが生じたことなど、テレビや新聞などで知った情報を伝え合った。僕の家族は、四十代の両親と高校生の姉と小学生の弟の五人だ。小学生の弟は驚くばかりで、

「どうやったら逃げられるんかねえ。」

と避難方法を考えていたが、体力や知恵のある大人も亡くなっているのだから、多分その状況になると逃げられないのだろうと僕は思った。父と母は子供だけでも助かって欲しいと言っていたが、子供の僕からすれば親が亡くなって子供が生き残るのも辛いと思えた。姉は、みんなが生き残れないのならみんなで死んでしまった方がいいかなと冗談まじりに言っていたが、僕もその方がいいなと思った。家族が死んで自分が生き残るのも、自分が死んで家族を悲しませるのも辛いと思った。

毎日の生活の中で、家族についてとか家族のありがたさなんて考えることもない。ただ一緒にいるのが当たり前で、誰か一人でもいないと家の中が少し広く感じる程度だ。両親は働いているので日中は家にいないが、休みになると家族と一緒に出かけることを提案してくる。姉と僕は、部活があたり自分の予定を優先するので、家族みんなだというのが数年前から少なくなった。あと数年して弟も中学生になると、みんなが一緒というのはますます難しいかもしれない。日々の生活の中でも、以前は当たり前だった家族みんな揃っての夕食は、父の仕事や姉や僕の塾のために難しくなっている。たまにみんなで食事となると、弟は嬉しいのか調子に乗って叱られてしまったりすることが多いが、つついみんなが話し込んでしまい食事の時間が延長してしまう。

家族とは、今の僕にはあって当然で、失うことは考えたくもないけど、今回の災害のように考えさせられる機会があればしっかり考えて、改めて家族みんなと一緒に生活していただけることに感謝しなければならなかった。